

パナソニック コミュニケーションズ

ネットワークカメラの活用で 遠隔地の業務管理を効率化

国内ネットワークカメラ市場をリードするパナソニック コミュニケーションズ(PCC)では、遠隔地の業務管理・スタッフ管理を効率化する「ゼロ距離マネジメント(ZDM)」提案に力を入れている。同社のシステムで成果をあげたユーザー事例を紹介しよう。



PoE受電部内蔵・光学21倍ズームタイプのネットワークカメラ「BB-HCE481」

離れた本部から 店舗スタッフの教育が可能に

顧客サービスの向上が求められるようになった今、企業にとって社員のスキルアップは重要なテーマといえる。例えば、接客業などでは、本部の教育方針を各店舗のスタッフに効率よく浸透させていく必要がある。

全国に数百店舗を持つ居酒屋チェーンのA社では、スーパーバイザー(SV)と呼ぶ管理担当者が、料理や盛り付けがマニュアル通りに行われているかなどのチェックや指導を各店舗を巡回し行ってきた。しかし、1日に巡回できる店舗数は限られるため、現場教育を効率化できる仕組みを模索していた。

そうした折りに、PCCのネットワークカメラのデモ実演を目にしたオーナーは、遠隔地から店内の状況をリアルタイムにモニタリングできるカメラ自体の価格がリーズナブル 携帯電話からも静止画で現場を確認できるという点を高く評価し、即導入

を決めた。

まずは数店舗での運用を開始した。その結果、厨房の動きや店員の接客状況を本部側でリアルタイムに確認したり、複数店舗の一括モニタリングで客観的な比較ができるようになった。SVの巡回頻度を減らしても従来と同等の教育が可能になり、各SVは担当店舗数を増やしつつ、よりきめ細かな現場指導を行えるようになったのである。

A社では、ネットワークカメラの設置を首都圏の全店舗に広げ、さらに全国展開を検討中。現場教育の強化により、均一で高品質なサービスの提供に一層の磨きをかけようとしている。

十数カ所の教室で 均質な授業を実現

某県内で学習塾を経営するB社は、十数カ所の教室あるいは講師によって授業内容や教え方にばらつきがあることに悩んでいた。実際、父母や生徒から「学力の伸びに差が生じているのでは」という不満も寄せられていたが、本部と教室が離れているため、きめ細か

な指導がままならなかった。

そこで、「音声も聞けるカメラがある」との話聞き、教室内にPCCの音声対応ネットワークカメラを設置。本部の指導教官や学長がリアルタイムで授業内容をチェックできるようにした。

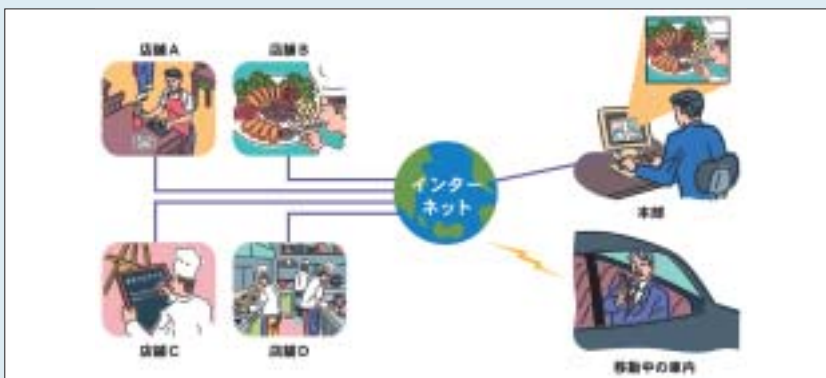
録画されたテープを見直すのとは違い、授業終了直後に指導できるため、講師も注意された点を次の授業ですぐに改善できるようになった。ネットワークカメラの活用でクオリティの高い授業の維持が可能になり、苦情も減少したという。さらに録画プログラムも導入し、先輩講師の授業内容を新人講師の指導に役立てている。

このように、飲食業、学習塾と異なる業種であっても、「ゼロ距離マネジメント」提案が、それぞれに抱えていた課題を解決した。

PCCでは、CMOSイメージセンサー採用の普及タイプ「BB-HCM100」(税込4万1790円)からPoE受電部内蔵の光学21倍ズームタイプ「BB-HCE481」(税込16万8000円)まで豊富な製品ラインナップを用意するとともに、CGIコマンドなど技術情報を公開することで、ネットワークカメラの多種多様な用途に対応していく構えだ。

お問い合わせ先

パナソニック コミュニケーションズ株式会社
ホームネットワークカンパニー
福岡市博多区美野島4丁目1-62
TEL 092-477-1853
URL <http://panasonic.biz/ipoffice/nwc/>



居酒屋チェーンA社のネットワークカメラ活用シーン